

先行き見えぬ「新福祉社会館建設スケジュール」

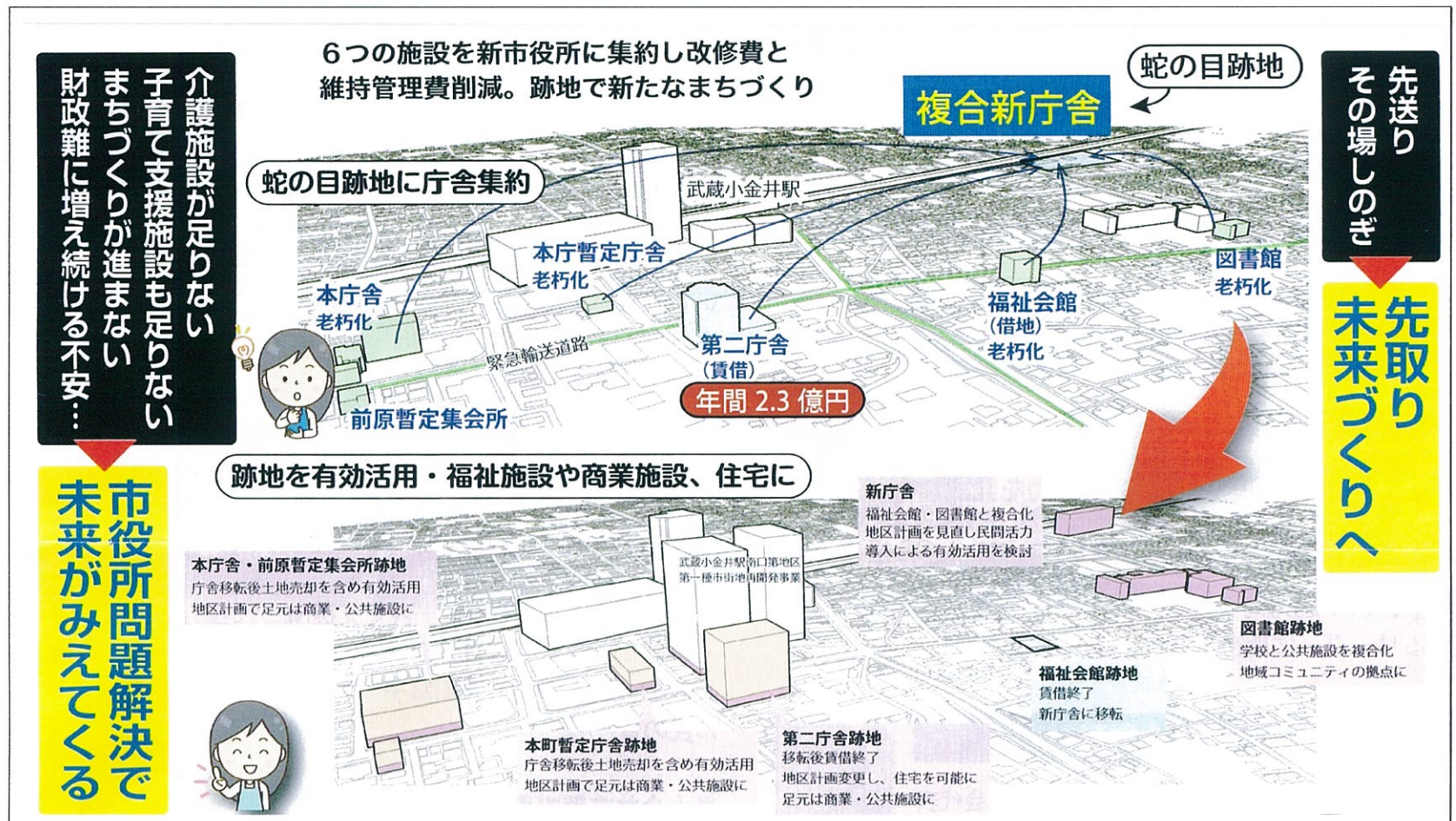
2016年2月11日(木)
日本共産党・板倉真也

昨年12月の市長選挙で、西岡真一郎氏が市長に当選。西岡氏は、福祉社会館の建替えにおいては「図書館本館と市役所庁舎を含めた複合施設(複合新庁舎)」にすることを表明し、「ジャノメ跡地」に建てることを公約した。では、いつ「複合施設(複合新庁舎)」はできあがるのか。老朽化した福祉社会館が今年3月末で閉館になるなかで、新しい福祉社会館を待ちわびる声は多い。

西岡市長と稲葉前市長の政策比較

西岡市長「ジャノメ跡地で複合施設(複合新庁舎)」

(西岡氏の政策チラシから)



「市役所問題を決着する」。福祉社会館もジャノメ跡地に集結

西岡氏は、市長選で配布したチラシで「市役所問題を決着する」を全面的に打ち出し、リース庁舎のムダ使いを指摘。庁舎問題の解決策として、イラストで施策を展開した。

イラストでわかるように、西岡氏の『解決策』は、①老朽化した本庁舎、②前原暫定集会施設、③老朽化した本町暫定庁舎、④第二庁舎(リース庁舎)をジャノメ跡地に移し、⑤老朽化した福祉社会館、⑥老朽化した図書館本館もジャノメ跡地に持ってくるというもの。そのことによって「各施設の改修費、維持管理費が削減され、新たな財源が生まれ、新たな市民サービスも可能」と述べている。

西岡氏は、6施設を集約した『複合新庁舎』の建設費を「約67億円」と試算(※1)。67億円の工面方法としては、「6つの施設の敷地を売却すると約23億円(※2)」「リース庁舎の保証金7億円のうち、元に戻す費用2億円を除いた5億円」「庁舎建設基金8億円」が収入(約36億円)。残額31億円については借金(起債)をする。しかし「リース庁舎の家賃等、年約2億3千万円を使えば、13年前後で返済可能」「起債はしますが、市民への新たな負担はありません」とチラシでうたっている。

※1 建設単価を坪120万円で想定。必要床面積を1万8,437.41㎡としている

※2 敷地面積×路線価×0.8で算出している

そのうえでチラシでは、「庁舎跡地は、民間活力を導入した商業と住居用地として活用し、高齢者や子どもの施設を併せれば、団塊世代が75歳になって福祉施策が今以上に必要になる2025年問題の対策にもなり、市民の皆さんの不安解消やまちの活性化につながります」と締めくくっている。

チラシはフルカラー刷り。長年の課題であった、リース庁舎の解消を含む「市役所問題の決着」を打ち出し、市民負担はゼロ、高齢者や子どもの施設の増設をうたった「まちづくり」も示すなかで、少なからず共感を呼び、激しい選挙戦を勝ち抜くに至った。では、このやり方で、今回の主題である「新福祉社会館」はいつお目見えすることになるのだろうか。

西岡市長の政策の場合、福祉社会館はいつ完成するのか

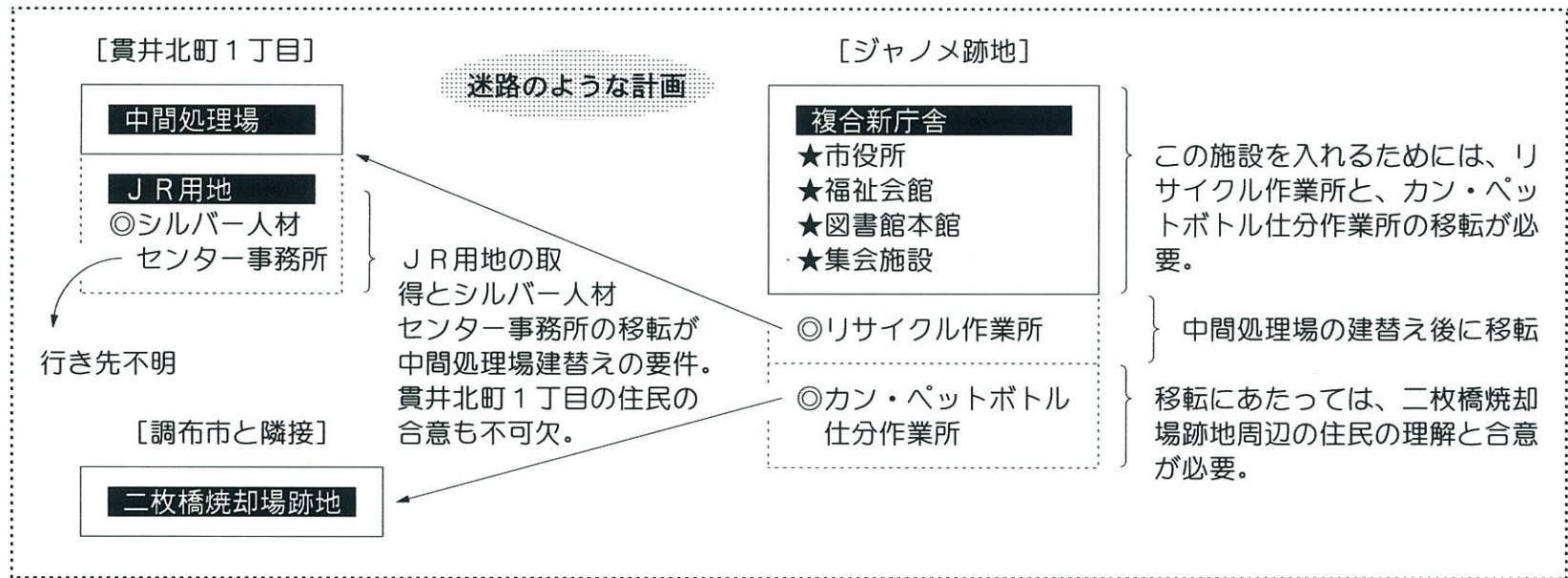
西岡市長の政策をすすめるためには乗り越えなければならない課題がある。「建設費 約67億円」や「67億円の工面方法」「必要床面積1万8,437.41㎡」の妥当性の検証は当然必要となるが、なによりも「ジャノメ跡地には既存施設があり、その移転が前提となる」ということである。

ジャノメ跡地には、リサイクル作業所やカン・ペットボトルなど資源物の仕分作業所がある。これらの施設を他の場所に移転することが必要となるが、移転予定地(※)の地域住民の理解・合意が不可欠となる。

※小金井市は、移転先を「中間処理場敷地(貫井北町1丁目)」と「二枚橋焼却場跡地(調布市と隣接)」と答弁
また、移転予定地の「中間処理場敷地」については、既存の中間処理場施設の建替えが必要となっており、建替え時にリサイクル作業所を併設するとしている。つまり、中間処理場施設の建替えまでは、ジャノメ跡地のリサイクル作業所の移転はできないということになる。しかし、中間処理場施設の建替え時期は「未定」。

一方、中間処理場施設の建替えにあたっては施設規模を増やすことから、隣接するシルバー人材センター事務所の敷地(JR用地)も活用(取得)するとしている。JRとの交渉や貫井北町1丁目住民の理解・合意とともに、シルバー人材センター事務所の移転が必要となる。その移転先も確保しなければならない。

こうして見てくると、ジャノメ跡地に『複合新庁舎』が完成する時期は、まったく見えてこない。しかし、現在の福祉会館は今年3月末で閉館する。



■西岡氏の「市役所問題を決着」の視点

リース庁舎(第二庁舎)の早期解消は、小金井市の長年の課題。業務が本庁舎と第二庁舎に分散化し、一方で24年前(1991年12月)に取得した市役所建設用地(ジャノメ跡地)が放置されている。第二庁舎には年間2億1千万円(2015年度)もの家賃を払いつづけ、1994年1月からの家賃支払いは2015年度末で53億9千万円に、維持管理費や駐車場借上げ料を含めると、76億8,250万円にものぼる。

市役所本庁舎は建てられてからすでに50年経過(1965年12月に完成)。老朽化し、耐震補強も待ったなしとなっている。耐震補強を行なえば「あと10年くらいは使わなければ」となり、ジャノメ跡地への市役所建設はその分、先送りとなる。しかもリース庁舎は継続。アベノミクスが叫ばれても税収は増えず、市財政が厳しいなかでは市役所建設に手が回らない。いつまでたってもリース庁舎が継続し、そのうちリース庁舎の建替えも必要になる——。これでは出口がなくなってしまう。

この堂々巡りを解決するためにと西岡氏は、ジャノメ跡地での『複合新庁舎』構想を発表。それぞれの施設が単独で存在していたのでは、改修費も維持管理費もかさむことから、新福祉会館を含む『複合新庁舎』をジャノメ跡地に建て、建設財源は既存の公共用地の売却等で対応する——。考え方をまとめると、このようになる。

そのことを公約に掲げた西岡氏が市長に当選した。当然に、公約の実現性が問われてくる。なかでも急がれるのは「福祉会館の建替え」。3月末で福祉会館が閉館となるなかで、4月からの活動場所を転々とするサークルや団体も予想される。活動を休止する老人会もあるといわれる。福祉会館で行なわれていた事業が、閉館を機になくなるものも出てくるという。新しい福祉会館はいつ完成するのか——福祉会館を利用している多くの団体や市民が、早期建設を求めている。

■前市長の計画「市役所駐車場に福祉会館建替え」は白紙に

引退した前市長・稲葉孝彦氏は、第二庁舎(リース庁舎)北西角の市役所駐車場に「福祉会館を単独で建替える」を表明し、どのような規模と施設にするかの計画案や建設費、スケジュールも示した。具体化するための市民検討委員会も12月にスタートし、「2019年10月に新福祉会館のオープン」のスケジュールまで明らかにされた。福祉会館を利用する人々は、それに向かって歩んでいくものと思っていたが、政権交代で、まったく異なる方向性が示されることとなった。

■前市長・稲葉孝彦氏の計画(案)概要

敷地内のプレハブ建物解体費用を含む。 自転車置場(100台)整備費、駐車	施設規模		地上4階、地下1階
	各階面	地下1階 693㎡	機械室・倉庫(5部屋)
		地上1階 693㎡	共同作業所、マルチスペース、受付・管理室

場(515m²)整備費を含む。

の規模等	積・施設概要	地上2階 693㎡	健康ルーム、多目的室(2室)、和室(1室)、倉庫(1室) 悠友クラブ、軽喫茶室(厨房付)、家事实習室(1室)
		地上3階 693㎡	各種支援センター、ボランティアセンター、相談室(3室) 権利擁護センター事務局、オンブズマン事務局
		地上4階 693㎡	社会福祉協議会、シルバー人材センター、会議室(1室) 生活困窮者自立相談支援窓口、倉庫(1室)
	合 計 3,465㎡		※許容延床面積は 4,409.1㎡

[illegible]

稲葉孝彦氏の計画(案)は、現在の福祉会館にある「男女別の浴室」や「公民館本館」が含まれておらず、「行革」の名で施設の整理淘汰がされ容認できない部分もあるが、期限を明確にした建替えスケジュールには、期待の声も多く聞かれていた。この計画(案)をタタキ台に、公募市民を含めた建設検討委員会が昨年12月11日に発足。2019年10月オープンに向かって、建設検討委員会の中で、建物の規模や入れるべき施設、財源について議論し、具体化されていく手はずとなっていた。

ところが政権交代で方針が180度変更となり、稲葉孝彦氏の計画(案)は「白紙」に。12月25日と1月15日の建設検討委員会は開催されず、開催の見通しも示されていない。また、新福祉開館の基本設計・基本計画、実施設計を担う事業者が昨年秋に選定されたが、この事業者との契約も解除するという。これらの一連の「見直し」は、議会や市民に一切説明されずにすすめられてきた。

政権交代で政策や方針が変更になることはありうるし、市政を変えることを訴えて当選したのであれば、自身の「公約」にしたがって行政執行を行なうのは当然のこと。問題は、議会や市民に説明もなく、一方的にすすめていいのかという点。建設検討委員会の設置や事業者への委託予算は、9月議会で可決された。議会議決を経てすすめられてきたものを変更するのであれば、変更前に議会に説明すべき。議会全体の下承は得られないかもしれないが、少なくとも事前説明は行なうべきである。

そのため、1月14日に西岡氏を応援した議員3人(鈴木、岸田、篠原)を除く21人の議員が連名で西岡市長に申し入れ。「市長就任以降の経過と市長の方針(立地・財源計画・スケジュール)を明らかにせよ」「市民や議会の同意を得られるまで拙速な対応をするな」。この申し入れを受けて1月27日、「新福祉会館の建設について」をテーマに市議会全員協議会が開かれた。

■耳を疑う発言「自分の政策を検証する」

市議会全員協議会では、「建設費 約67億円」「67億円の工面方法」「必要床面積 1万8,437.41㎡」は妥当性があるのか。新福祉会館を含む『複合新庁舎』はいつ完成するのか。この間、どのような議論を行ってきたのか、という点を中心に質問が展開された。

しかし、担当部局は「今後のスケジュール、財源は現時点、示せるところではない」と述べ、西岡市長に至っては「私は現職ではなかったので、私の掲げた政策が実現可能なのかどうかを、部局に検証してもらっている」と述べた。

「私の掲げた政策が実現可能かどうかを検証する」の答弁には驚いた。「私は、市役所問題をこのようにして解決します」と市民に具体的に訴えておきながら、当選すると「実現可能かどうかはわからない」と言うのである。

では、新福祉会館を含む『複合新庁舎』の政策は誰が考えたのか。西岡市長は「私のブレインが考え出したもの」と答弁。暗に「ブレインが考えたから、私は詳細を把握していない」と言っているに等しい。しかし、市民は西岡市長自身の「政策」「公約」だと判断する。

西岡市長に問いたい。市長選挙で全面に掲げ訴えてきた公約が「実現不可能」なものであった場合、どう責任をとるのか、と。西岡市長に市政を託した有権者は、選挙戦での公約に期待を寄せて一票を投じている。その公約が実現不可能なものであっても、「プレーンが考え出したものなのだから、ご容赦願いたい」とでも言うのであろうか。

■困るのは福祉会館の早期建替えを切望する市民

福祉会館は3月末で閉館となる。代わりの施設はなく、既存の公民館や有料の集会所を利用せよというのが、小金井市の姿勢となっている。知的障害者が通う福祉共同作業所(福祉会館の地下1階)は代替施設が設けられるが、場所は東小金井駅東側の中央線高架下のプレハブ施設。知的障害者がそこまで行くのは大変に厳しい。しかし「2019年10月には新たな福祉会館が誕生する」とのスケジュールがあればこそ、まだ救われる。しかし、西岡市長の政策では、いつまで我慢すればよいのかがわからない。

西岡市長は、自身の政策が実現可能かどうかを「検証」する期間をどれくらいと考えているのであろうか。「実現可能」となったら、市民を含めた建設検討委員会を設置すると思われるが、建設検討委員会をどれくらいの期間、開催すると考えているのであろうか。福祉会館や図書館本館も併せた『複合新庁舎』であるならば、福祉会館のみの検討ではすまなくなり、相当な時間を要すると思われる。

「検証」の結果、「実現不可能」となった場合はどうするのであろうか。「検証」に要した期間そのものが「空白期間」となり、福祉会館建替えの検討は練り直しとなる。ちなみに、西岡市長の政策には、公共施設の「単独建替え」は登場してこない。「複合施設化」が西岡市長の考え方となっている。理由は「単独施設よりも複合施設の方が、改修費、維持管理費が割安」だから。

いずれにしても、西岡市長の政策では、いつになったら新福祉会館がお目見えするのかが見えない。相当、先になることだけはハッキリしている。だとしたら最低限、福祉会館の代替施設は不可欠である。空いている公民館や集会施設をその都度、探し歩くような不安定な状態を長く続けさせるのではなく、プレハブでもいいので、代替施設を設置すべきである。

■西岡市長に求められる視点

市民は自民・公明市政からの転換を求め、西岡市政を誕生させた。しかし、稲葉市政と変わらず旧態依然の市政であれば、転換させた意味は失せ、失望と怒りを生み出す。哀れなのは、期待して西岡氏に一票を投じた有権者である。

「市報」元日号に西岡市長の挨拶が掲載されている。「基本は対話、市民との対話、議会との対話を大切にすること」と記されている。ホントにそう思っているのであろうか。西岡市長には、稲葉自民・公明市政とどう違うのかが問われている。

以上。